

OPERA
PALACE

Tokyo
オペラパレス

オペラパレスへようこそ

2010/2011 SEASON OPERA

ジャコモ・プッチーニ

【全2幕／イタリア語上演／字幕付】

2011年 **6/6** [月] 6:30 **9** [木] 6:30 **12** [日] 2:00 **15** [水] 2:00 **18** [土] 2:00

Giacomo Puccini : Madama Butterfly

蝶



2008/2009シーズン公演より Stage Photo : Saegusa Chikashi



新国立劇場

オペラパレス — OPERA PALACE

2010 / 2011 シーズン・特別支援企業グループ

住友化学 TBS TOYOTA ぴあ

ボックスオフィス

03-5352-9999

<http://www.nntt.jac.go.jp/opera/>

Giacomo Puccini Madama Butterfly

台本：ルイージ・イッリカ/ジュゼッペ・ジャコーザ 作曲：ジャコモ・プッチーニ Libretto by Luigi Illica/Giuseppe Giacosa Music by Giacomo Puccini

蝶々夫人 ジャコモ・プッチーニ 【全2幕/イタリア語上演/字幕付】

愛を信じ、愛ゆえに死を選んだ蝶々さんの悲劇。涙を誘う感動作。

明治の長崎を舞台に、アメリカ海軍士官の夫に一途な愛を捧げる15歳の蝶々さんの悲しくも美しい運命を描いた傑作。

新国立劇場で最も数多く上演されている人気作品で、プッチーニならではの甘美な旋律と劇的な音楽展開は幅広い聴衆を魅了しています。

今回の公演では、可憐な容姿と美しく劇的な歌唱で、世界の一流歌劇場で喝采を浴びているオルガ・グリュコヴァをタイトルロールに迎えました。

魅力的なキャスト陣が新鮮な感動をお届けします。



イヴ・アベル



栗山 民也

2010/2011 シーズンの最後は名作オペラで

私のシーズンでは、「より広く、より深く、そして楽しく」をテーマとしていますが、より広くの方にオペラに親しんでいただきたい、そういう思いから選んだレパートリーが『蝶々夫人』です。日本を舞台にした物語に、美しいプロダクション、そしてプッチーニの親しみやすい音楽。オペラをはじめてというお客様にも、必ずやご満足いただける作品だと思います。

指揮をお願いしたのは、欧米のオペラハウスで華々しい活躍をしているイヴ・アベルです。本作品を知り尽くした東京フィルハーモニー交響楽団と共に、素晴らしい演奏をし

てくださると思います。キャストには、欧州各地で蝶々さんを歌っているオルガ・グリュコヴァ、新国立劇場でもおなじみのゾラン・トドロヴィッチ、そして、ウィーン国立歌劇場で活躍している甲斐米次郎を迎えました。有名なアリア「ある晴れた日に」など、美しい旋律を歌い上げる充実のキャスト陣にどうぞご期待ください。

シーズンの締めくくりを飾る名作オペラを、多くの皆様にお楽しみいただけたら幸いです。

新国立劇場オペラ芸術監督 尾高忠明



オルガ・グリュコヴァ



ゾラン・トドロヴィッチ



甲斐 米次郎



大林 智子



高橋 淳



島村 武男



佐藤 勝司



松本 進



山下 牧子

指揮：イヴ・アベル

Conductor : Yves Abel

演出：栗山 民也

Production : Kuriyama Tamiya

美術：島次郎

Scenery : Shima Jiro

衣裳：前田 文子

Costume : Maeda Ayako

照明：勝柴 次朗

Lighting Design : Katsushiba Jiro

再演演出：江尻 裕彦

Revival Director : Ejiri Hirohiko

舞台監督：田中 義浩

Stage Manager : Tanaka Yoshihiro

蝶々夫人：オルガ・グリュコヴァ

Madama Butterfly : Olga Guryakova

ピンカートン：ゾラン・トドロヴィッチ

Pinkerton : Zoran Todorovich

シャープレス：甲斐 米次郎

Sharpless : Kai Eijiro

スズキ：大林 智子

Suzuki : Obayashi Tomoko

ゴロー：高橋 淳

Goro : Takahashi Jun

ボンゾ：島村 武男

Lo zio Bonzo : Shimamura Takeo

神官：佐藤勝司

Il commissario imperiale : Sato Shoji

ヤマドリ：松本 進

Il principe Yamadori : Matsumoto Susumu

ケート：山下 牧子

Kate Pinkerton : Yamashita Makiko

合唱指揮：富平 恭平

Chorus Master : Tomihira Kyohei

合唱：新国立劇場合唱団

Chorus : New National Theatre Chorus

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

Orchestra : Tokyo Philharmonic Orchestra

芸術監督：尾高 忠明

Artistic Director : Otaka Tadaaki

やむを得ない事情により出演者等が変更になる

場合がございます。あらかじめご了承ください。

蝶々夫人役で出演を予定しておりましたクリスティーン・オボライスは都合により出演できなくなりました。代わってオルガ・グリュコヴァが出演いたします。



「あらすじ」
明治の頃、長崎の海を望む丘。アメリカ海軍士官のピンカートンは、結婚幹旋人の仲介で15歳の若者、蝶々さんを見付け、アメリカ領事シャープレスの忠告をきき、軽い気持ちで結婚式を挙げる。やがてピンカートンは帰国、愛を信じて疑わぬ蝶々さんは音信不通の夫を、3歳の息子と女中のススキの3人で帰りを待つ。やがてアメリカで正式に結婚したピンカートンが妻ケートをつれて長崎に。全てを悟った蝶々さんは、我が子をケートに託し、父の形見の短刀で命を絶つ。

「プッチーニ・ヒロイン」という言葉がある。プッチーニ・オペラの大半に登場する、可憐で女らしく、恋人に一途な愛を捧げる女性たちのことだ。彼女たちの愛は、命も投げ出すほど大きく、深い。
『蝶々夫人』のヒロイン、蝶々さんは、そんな「プッチーニ・ヒロイン」の極北にいる。芸者という男女の機微をわきまえておくべき職業でありながら、乙女（蝶々さんは「15歳」と設定されている）らしいひたむきさでピンカートンを愛し、現地妻であることを受け入れずにひたすら彼を待つ。冷静に考えれば不自然といえなくもない設定なのだが、プッチーニの音楽の魔法は聴き手を蝶々さんに引きつけて離さない。長身美男のピンカートンに一目ぼれし、初夜の飲びに酔い、待つわびしさに耐えながらも希望を失わず（名アリア「ある晴れた日に」は、蝶々さんのけなげさの結晶だ）、言い寄る男を毅然と退け、ピンカートンの「帰国」に躍り上がり、心変わりという真実を突きつけられて絶望し、死を決意する・・・プッチーニは、ひとりの女性のそんな心の動きを、彼が身につけたあらゆるテクニックを動員して、巧みに細やかに、そしてどこまでも美しく追うことで、ひとつの傑作を創りあげてしまった。その筆致には、『蝶々さん』への限らない愛がこめられている。自分のオペラなどとても聴けない、と言っていたプッチーニが、『蝶々夫人』だ

けは最後まで聴ける、と評価していたという。彼は「全世界の人々を泣かせたい」と本気で考えていた作曲家だが、『蝶々夫人』が泣けるオペラの最右翼であるのは、プッチーニがいかにこの作品に入れ込んでいたかの証左ではないだろうか。
言うまでもなく『蝶々夫人』は、日本を舞台にしたオペラであり、それゆえ日本人に特別な親近感を抱かせる作品でもある。プッチーニは作曲にあたり、日本の旋律を収集してあちこちに取り入れた。精緻なオーケストラから時折聴こえる「お江戸日本橋」や「さくらさくら」に、親しみやすさをおぼえるひとと多少なくないだろう。その一方で、作品のなかに見え隠れする日本への尊大な視線に違和感を感じるという声も、ないわけではない。けれど「日本趣味（ジャポニスム）」は、世紀末ヨーロッパを席巻した流行だった。そしてジャポニスムに傾倒した芸術家のほとんどは、現実の日本を知らなかった。プッチーニも日本の土を踏んではない。でもだからこそ、彼の想像力は自由に羽ばたいたのだろう。



2003/2009 シーズン公演写真 © Stage Photo : Saegusa Chikashi

主要スタッフ・キャスト プロフィール

指揮：イヴ・アベル

トロント出身。05年よりベルリン・ドイツ・オペラの首席客演指揮者を務めるほか、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ・バリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場など世界の一流歌劇場で活躍。「カルメン」「ヴェルテル」「カルメル会修道女の対話」「ヘレアスとメリザンダ」など定評あるフランスものに加え、「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「セビリアの理髪師」「愛の妙薬」「連隊の娘」「ドン・カルロ」「椿姫」など幅広いレパートリーを誇る。新国立劇場初登場。

蝶々夫人：オルガ・グリュコヴァ

ロシア生まれ。これまでにメトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、モネ劇場、チューリッヒ歌劇場などに出演。「エウゲニ・オネーギン」「タチヤナ」「ラ・ボエーム」「ミミ」「蝶々夫人」タイトルロール、「オテロ」「テズデーモナ」などを歌っている。日本では07年にサイトウ・キネン・フェスティバル「スベードの女王」リレーザに出演し好評を博した。新国立劇場初登場。11/12シーズンは「ルサルカ」タイトルロールに出演予定。

ピンカートン：ゾラン・トドロヴィッチ

ベオグラード生まれ。これまでにウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、モネ劇場、チューリッヒ歌劇場などに出演。「ドン・カルロ」タイトルロール、「オテロ」タイトルロール、「トゥーランドット」カラフなどをレパートリーとする。新国立劇場では00年「エウゲニ・オネーギン」、01年「蝶々夫人」、07年「カルメン」、10年「ニューイヤーオペラ/レス・ガラ」に出演。

シャープレス：甲斐米次郎

東京芸術大学卒業、同大学院修了。ザンドナイ・コンクール第3位、テイト・スキーバ・コンクール第1位入賞。文化庁派遣芸術家在外研修員としてニューヨークへ、五島記念文化財団の助成によりボローニャへ留学。03年9月ウィーン国立歌劇場専属ソリストとして契約。マルチェッロ、レスコー、シャープレス、ヘルコーレ、エンリーコなどの36役で280回以上の舞台に出演中。新国立劇場には04年「鳴神」鳴神上人役で初登場。二期会会員。

新国立劇場 2010/2011 シーズン オペラ・ラインアップ

2010年10月全6公演 2/5/8/11/14/17 (新制作) R.シュトラウス【全3幕】 アラベツ 古き良きウィーンの薫り漂う、運命の人との愛を夢見る美人姉妹の恋物語。	10月全4公演 10/13/16/19 モーツァルト【全4幕】 フィガロの結婚 花嫁の「初夜」が伯爵に奪われる!? 天才モーツァルト不朽の名作	11月全5公演 12/15/18/21/24 ジョルダーノ【全4幕】 アンドレア・ジェニエ 断頭台の露と消えた詩人ジェニエ伯爵令嬢マダレーナの悲恋。	12月/2011年1月全5公演 25/28/4/7/10 (新制作) ワーグナー【全3幕】 トリスタンとイゾルデ ワーグナー至高の愛と才能の名作。待望の新国立劇場初上演!	2月全3公演 4/5/6 團伊玖磨【全1幕】 夕鶴 つうの哀しみが胸深染みる...国民的人気を誇る日本オペラの代表作。	2月全5公演 14/17/20/23/26 ヴェルディ【全3幕】 椿姫 社交界の華と純粋な青年の深い純愛。純愛オペラの決定版!	3月全6公演 15/18/21/24/27/30 (新制作) プッチーニ【全4幕】 マノン・レスコー 狂おしいまでに愛された美少女マノンの物語。プッチーニの出世作。	4月全6公演 7/10/13/16/19/22 R.シュトラウス【全3幕】 ばらの騎士 豪華絢爛なウィーンの煌めき。オペラの醍醐味これに極まる!	5/6月全5公演 29/2/5/8/11 (新制作) モーツァルト【全2幕】 コジファン・トゥッテ 貴方の恋人は誠実? モーツァルトによる恋愛コメディを新制作で。	6月全5公演 6/9/12/15/18 プッチーニ【全2幕】 蝶々夫人 愛を信じ、愛ゆえに死を選んだ蝶々さんの悲劇。涙を誘う感動作。
---	--	---	---	--	--	--	---	---	---

2011/2012 シーズン オペラ ラインアップ

2011年10月 ヴェルディ
10月 R.シュトラウス
11-12月 ドヴォルザーク
12月 J.シュトラウスⅡ世
2012年 1月 プッチーニ

イル・トロヴァトーレ (新制作)
サロメ
ルサルカ (新制作)
こうもり
ラ・ボエーム

2012年 2月 松村禎三 (新制作) 中劇場
3月 ワグナー **さまよえるオランダ人**
4月 ヴェルディ **オテロ**
4月 モーツァルト **ドン・ジョヴァンニ**
6月 ワグナー **ローエングリン** (新制作)

優先 豊富 お得 安心

全演目をご覧いただくフルシリーズから、お好きな3公演日以上をお選びいただくヴァリエーションまで、多様なセット券をご用意。
セット券の詳細・お申込み ▶ クラブ・ジ・アトレWEBサイト www.atre.jp
HPをご覧になれない方は、ボックスオフィスまでセット券案内パンフレット(申込書付)をご請求下さい。TEL 03-5352-9999

前売開始 **2011年2月13日(日)10:00~**
Booking Opens from Sat.13th Feb. 2011 10:00am

ボックスオフィス 03-5352-9999
Webボックスオフィス(PC、携帯共通)
<http://pia.jp/nntt/>
携帯版ボックスオフィスはこちらから→

■チケット取り扱い
(D席のお取り扱いにはボックスオフィスとチケットぴあのみです。)

チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード 347-388)
インターネット予約 <http://pia.jp/t> (PC&携帯)

イープラス <http://eplus.jp/> (PC&携帯)

CN プレイガイド 0570-08-9990
<http://www.cnplayguide.com/> (PC&携帯)

ローソクチケット 0570-000-407 (Lコード 31710)
<http://l-tike.com/> (PC&携帯)

東京文化会館TS 03-5685-0650
<http://www.t-bunka.jp/> (PC)

JTB・近畿日本ツーリスト・日本旅行・トップツアーほか

■座席と料金(税込) オペラパレス 1,792席

上質のオペラを
納得のプライスで。

■S席 21,000円
■A席 15,750円
■B席 10,500円
■C席 6,300円
■D席 3,150円
■Z席 1,500円(※2)

※1 発売初日に限り、D席のお申し込みは1人合計2枚まで。
※2 Z席42席は、公演初日に先がけて全日程各20枚を新国立劇場Webボックスオフィス(PC&携帯)にて抽選販売いたします。抽選販売の残席と22席を公演当日ボックスオフィスにて一般発売。いずれも1人1枚、電話予約不可。

「蝶々夫人」Z席Web抽選販売のスケジュールは以下の通りです。

Z席 Web抽選受付期間	2011/6/2(木) 11:00 - 6/3(金) 11:00
Z席 Web抽選結果発表	2011/6/3(金) 18:00頃

託児室 <キッズルーム> 『ドレミ』各公演一般発売日より受付開始。
米場予定日1週間前までに下記まで電話予約。定員制。■利用料金: 0~1歳 2,000円 / 2~12歳 1,000円 ■ご予約・お問合せ: 株式会社集英社プロダクション HAS 総合保育事業部 0120-500-315 (土日祝を除く午前10時~午後5時)

■公演日程(蝶々夫人) 託児室利用可能日

2011年 Jun	6/6 [月]	9 [木]	12 [日]	15 [水]	18 [土]
開演時間	6:30	6:30	2:00	2:00	2:00

●予定上演時間: 約2時間35分(休憩含む)
●開演は開演の45分前 ●開演後は入場制限をいたします。

■割引等のご案内

□高齢者(65歳以上)、学生、障害者、ジュニア割引がご用意です。ボックスオフィスにてお申し込みの際に、割引一部店舗でもご利用いただけます。他のプレイガイドでは受付できません。それ以外、年齢を確認できるもの(学生証・障害者手帳が必要になります。)

□開演後、S席に残席がある場合、割引価格にて、1回目の休憩後より観劇いただけます。

□当日学生割引(50%割引/D席・Z席を除く): 公演当日のみボックスオフィスとチケットぴあ一部店舗で販売。1人1枚、電話予約不可。要学生証。

□車椅子をご利用のお客さまはボックスオフィスまでお問い合わせください。

■備考

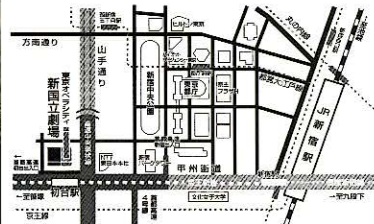
□就学前のお子様のご同伴・ご入場はご遠慮ください。お子様も1人1枚チケットをお求めください。

□経路、手摺の近く、バルコニー、上層階の一部のお座席で、舞台・字幕が見えにくい場合がございます。ご了承ください。

□公演日、席種によっては、お求めになれないことがあります。

公演中止の場合を除き、チケットの変更・払い戻しはいたしません。

■グループでのお申し込み 10名以上でご観劇の場合は新国立劇場営業部(TEL 03-5352-5745)までお問い合わせください。



交通のご案内

- 京王新線(都営新宿線乗入) 新宿駅より1駅、初台駅中央口直結。
KEIO NEW LINE, HATSUDAI STATION
(京王線は止まりません。)
- 山手通り、甲州街道交差点。首都高速4号線新宿出口・初台出口すぐ。
劇場地下に駐車場があります。ご観劇の際は、駐車料金を割引いたします。
(詳しくは当日、劇場受付にてお問い合わせください。)



新国立劇場

〒151-0071 東京都渋谷区本町1-1-1 TEL.03-5351-3011
NEW NATIONAL THEATRE, TOKYO / 1-1-1 HON-MACHI, SHIBUYA-KU TOKYO JAPAN